

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 佳作

## 14 歳の君へ

(原文)

古谷 元 (14 歳)

茨城県

常総学院中学校

14 歳の君、元気にしていますか？

24 歳の僕から君へのメッセージです。

2020 年の君の役に立てたら嬉しいです。

2030 年の世の中について話しますね。

まず、皆で持続可能な社会を作ろうと努力をしています。

その中の一つとして、食品ロスが減りました。なぜかというと、政府が国民に対して、3つのルールを定め、社会全体で協力をしているからです。ルールの内容は3つあります。

1つ目は、食品の過剰除去をしないということです。昔は、本来使える部分を使わずに捨ててしまっていることもありましたが、それを防ぐ為に、できるだけ使える部分は全て利用できるように個々で工夫をしています。

2つ目は、買い過ぎないということです。「食べられる量だけを買う」という呼びかけをし、無駄な買い物を減らしています。

3つ目は、賞味期限・消費期限をよく見て買うということです。よく確認をしながら購入することにより、うっかり食べ忘れてしまい廃棄することになる、という事がなくなってきています。

これらのことを、国民一人一人が心掛けたことにより、2020年の日本の食品ロス年間500~800トンに比べ、現在は約半分減りました。今後も新しい方法を見つけながら、食品ロス減少への取り組みを続けていきます。

そして、世界全体へ目を向けてみると、これらの結果が、食糧難の人々への救済やゴミ削減による環境保護にも繋がっています。食品ロスを減らすことが、地球レベルで環境問題について考えることにも結びついているのです。その例として、アフリカなどの発展途上国に物資の支援をすることができ、餓死者がだんだん少なくなりました。一人一人のちょっとした努力の積み重ねが、良い方向に向かっていきます。

今の生活スタイルは、インターネットを活用した生活様式になっています。働き方は各自治体でテレワークに率先して取り組んでいます。在宅勤務を行うことで、子どもを持つ女性も働きやすい環境

になり、仕事もしやすくなりました。オンラインによる会議もメインになってきているので、男性も子育てに積極的に参加ができ、女性の育児への負担も減り、出生率も伸びてきました。

教育現場でも、オンライン授業を活用し、教科書を使わない学習へと変化しています。

又、一部の幼稚園や保育園は介護老人保健施設と合体しています。そうすることにより、2020年に問題になっていた待機児童の受け入れもスムーズに進み、解消されています。高齢化が進み、需要が増した介護老人保健施設も幼稚園や保育園と一体になることにより、園児やそこに来る保護者との触れ合いもでき、家族での施設利用も可能なので、2世代交流になり、皆が生き生きと暮らしています。

現在の僕は、政治家になって一年目です。社会福祉関係の取り組みに力を入れています。高齢化社会になった為、一人暮らしの老人も増えてきました。その方々への手厚いサポートとして、自治体ごとに宅配サービスや見回りを通しての声かけ運動に取り組んでいます。又、これからの未来を支えてくれる子ども達への充実した教育活動にも力を入れています。これも2020年の僕が、ボランティアでやってきたことが生かされていると感じています。社会的弱者に優しい世の中になるように、様々なことを発信できるよう日々努力しています。

最後に、14歳の君に伝えたいことは、「今を大切に生きる」ことです。その為には、一生懸命勉強をし、様々なボランティア等に積極的に参加して下さい。色々な経験や体験が2030年の僕を作ってくれています。勇気をもって多くのことに挑戦をし、昨日までの自分を超えて下さい。それと、愛をもって生きて行って下さい。自分の周りの人達に感謝をし、前へ進んで行って下さい。

2030年の僕を作ってくれてありがとう。